

CONTENTS

1. 令和4年度全国一斉海浜清掃旗揚げ式 _____ 1
2. 環境・生態系維持・保全活動等調査事業
① 令和3年度海浜等清掃活動状況調査報告 抜粋 _____ 3
② 令和3年度漁民の森づくり活動等調査 抜粋 _____ 6
3. 第24回シーフードショーに参加 _____ 8
4. 第6回京都大学“超”SDGsシンポジウムに参加 _____ 8
5. 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動) 報告 _____ 9

<http://www.umitonagisa.or.jp>

公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構

発行者 公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24 湯島ペアービル7F
TEL 03-5800-0130 FAX 03-5800-0131
E-mail info@umitonagisa.or.jp

Twitterフォロー
お願いします



@umitonagisa

1. 令和4年度全国一斉海浜清掃旗揚げ式

日 時：令和4年5月22日午前10時～12時 場 所：兵庫県明石市江井ヶ島海岸
主催者：ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会、(公財)海と渚環境美化・油濁対策機構

令和4年度全国一斉海浜清掃旗揚げ式を兵庫県明石市江井ヶ島海岸で開催しました。前日は少し涼しく、小雨が降ることもありましたが、当日は晴天に恵まれ、日差しも強く、熱中症を心配するほどでした。開催場所になった江井ヶ島海岸は日ごろからバーベキューなど、地域住民が利用している海岸で数年前までは海水浴場としても使用されていたようです。

旗揚げ式参加者は80名程度。主催者挨拶として兵庫県漁連田沼会長から「今は漁獲量が大変少なくなっていて、現在は漁業者が豊かな海にするためにため池のかい掘りや海底耕耘、海底ごみの回収に努めている。」ことが紹介されました。

続いて水産庁長官の挨拶を瀬戸内海漁業調整事務所岩本所長が代読し、「関係者の皆様が豊かな海づくりに尽力されている。水産庁も関係省庁と連

携し積極的な施策を行っていきたい。」と述べました。

坂本専務理事から美化宣言の後、兵庫県豊かな海づくり大会のマスコット「はばたん(第41回全国豊かな海づくり大会バージョン)」と参加者全員で記念撮影を行いました。



会場入り口で兵庫県の取り組みをパネルで紹介





大会のマスコット「はばタン(海づくり大会バージョン)」気温が高かったので、子供たちと戯れる時間を少なめに早々に隠れた。

海浜清掃に先立ち、ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会突々会長(兵庫県漁連専務理事)が「漁業者は豊かな海」を目指していると、改正瀬戸内海環境保全特別措置法の紹介をしました。また、ごみは川から海に流れ込む。この海岸は近くに川がないのできれいだ。川の清掃も広がっていけばと川と海が協力した取り組みへの思いを語っていました。海浜清掃は30分程度実施され、参加者にはごみ袋と軍手が渡されました。きれいな海岸でしたが、小さなプラスチックごみを拾う家族や護岸工事の石に挟まったごみを拾う家族がいました。

きれいに見える海岸でも回収物には古タイヤなど大きなものもありました。

今回の旗揚げ式は海浜清掃と海上学習(漁船乗船体験)が組まれていました。海上学習では参加者はJF明石浦、JF林崎、JF江井ヶ島の漁船に分かれて乗船して、透明度板を用いたりしながら透明度と栄養塩の関係などの説明を受けてました。

乗船した人の話では、漁船に乗ることや漁網に触れる機会はなかなか無いので、楽しかったと言っていました。

閉会式ではコープこうべの金子理事から万葉集にある聖武天皇と山部赤人の話をされ、奈良時代の明石はマグロ漁で栄え、行幸された10月10日が「マグロの日」、兵庫県明石市の海岸は発祥の地という紹介をされた後、豊かな海の話がありました。

兵庫の発表者は皆さん豊かな海についてそれぞれの言葉で語っていて、豊かな海づくりへの意識が高い地域と感じました。着ぐるみに入っていたのは明石市役所5年目の職員だそうです。暑い中お疲れさまでした。(福田)

*ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会とは「豊かで美しい海の理念を啓発し、県内水産物の消費を喚起するため、立ち上げた協議会」で兵庫県、明石市、神戸市、兵庫県漁連、コープこうべで構成されている



兵庫県漁連 田沼会長



ごみ袋をもらう参加者



トングで発泡ごみをつかんで何を思う



隙間のごみを回収しようと頑張る参加者



ライフジャケット着せてもらう子供



3漁協の船そろい踏み



コープこうべ金子理事

2. 環境・生態系維持・保全活動等調査事業

① 令和3年度海浜等清掃活動状況調査報告 抜粋

平成9年度より行っている海浜等清掃活動実施状況調査の令和3年の報告書ができました。報告書の全文はホームページに掲載しています。<http://www.umitonagisa.or.jp/html/bika.html>
【調査結果の概要】

「海浜等清掃活動実施状況調査」は、各都道府県に調査票を配布し、その回答を集計する方法で行っています。内陸県を含む全国47都道府県に調査票を配布しうち36都道府県から回答を頂きました。

1 活動回数及び活動場所

清掃活動を実施した月別の実施回数と割合は図1及び図2のとおりです。

令和3年は、全国で延べ11,588回の活動が行われました。中でも7月、8月、9月の実施回数が多く全体4割近くを占めています。

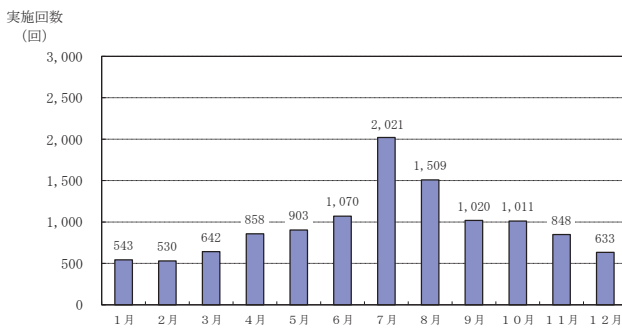


図1 月別実施回数

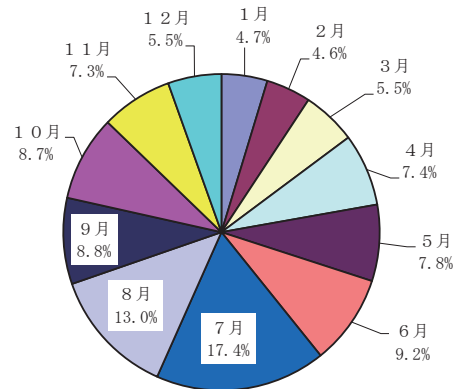


図2 月別実施回数の割合

2 清掃場所別の参加者数と清掃距離

清掃場所別の参加者を表1に、清掃実施場所別の参加者の割合を図3に、参加者1人あたりの清掃距離(延べ)を図4に示しました。

延べ参加人数は約43万人でした。参加者数を活動場所別にみると、海岸(約35万人)が全体の5/6、河岸(約7万人)で全体の1/6で、この2つをあわせると全参加者数の約98%を占めました。

延べ清掃距離では、海岸が8千407 km、河岸が

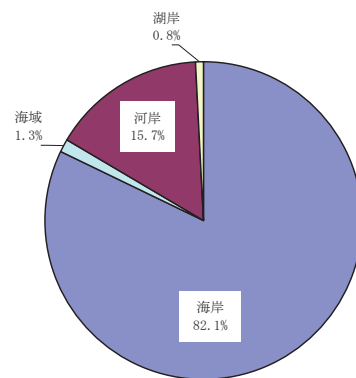


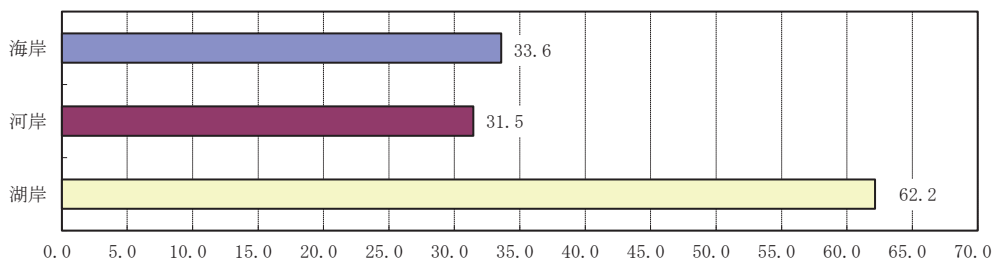
図3 清掃実施場所別の参加人数の割合

表1 清掃実施場所別の参加人数

		全体	海岸	海域	河岸	湖岸	湖域
清掃人数(人)		425,836	349,381	5,665	66,826	3,429	535
清掃距離	延べ距離(km)	9,229	8,407	—	750	73	—
	面積(km ²)	601	—	568	—	—	33

750km、湖岸は73kmでした。海域の清掃面積は568km²で、湖域は33km²でした。

また1人あたりの延べ清掃距離は、海岸は約33.6m、河岸31.5m、湖岸で62.2mでした。



注：延べ清掃距離及び参加人数の双方に回答があるデータから算出した。(m/人)

図4 参加者1人あたりの延べ清掃距離

3 参加者の属性

参加者の内訳を図5のとおりです。成人男子が62.0%、成人女子が18.2%、大学生が0.7%、中・高校生が10.9%、小学生以下が8.2%でした。

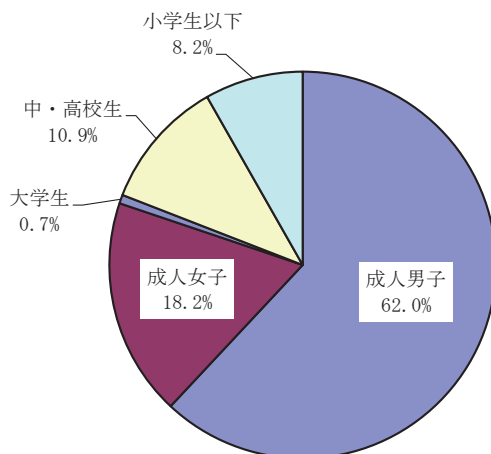


図5 参加者の構成割合

4 主催者と参加者の構成

清掃活動の主催者別割合を図6、参加者別割合を図7に示します。清掃活動の主催者、参加者ともに「地域関係」の割合が高く、主催者では36.7%、参加者では29.5%を占めていました。また、「行政」は主催者で18.3%、「企業関係」は参加者で17.2%を占め、「地域関係」に次いで大きな役割を果たしていました。これらに次ぐのが「水産関係」でした。

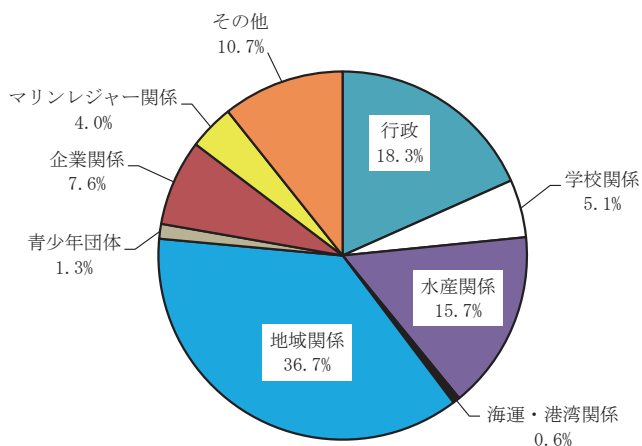


図6 主催者の構成割合

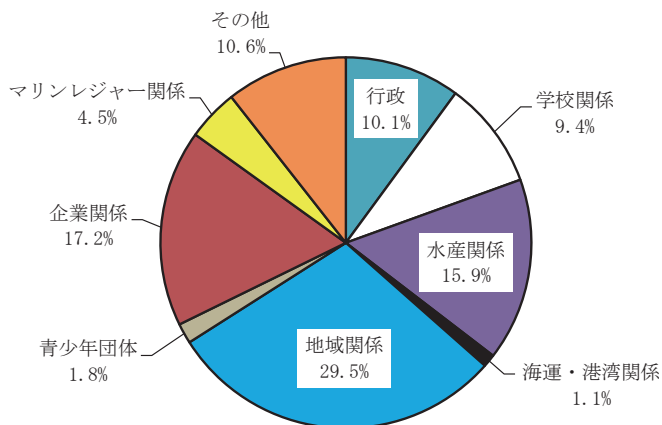


図7 参加者の構成割合

5 ごみ回収状況

(1) ごみの回収量

ごみ回収量と場所別の割合を図8、参加者1人あたりのごみ回収量を図9、1kmあたりのごみ回収量を図10に示しました。

ごみの回収量は、全体で約4万4千 m^3 でした。

場所別では海岸が約4万1千 m^3 で最も多く、次いで河岸が約2.6千 m^3 で、この二つで全体の約99%を占めていました。

参加者1人あたりのごみ回収量は、海域が最も多く0.46 m^3 、次いで海岸が0.19 m^3 、河岸および湖岸が0.05 m^3 でした。

1kmあたりのごみ回収量は、河岸が最も多く約3.81 m^3/km でした。

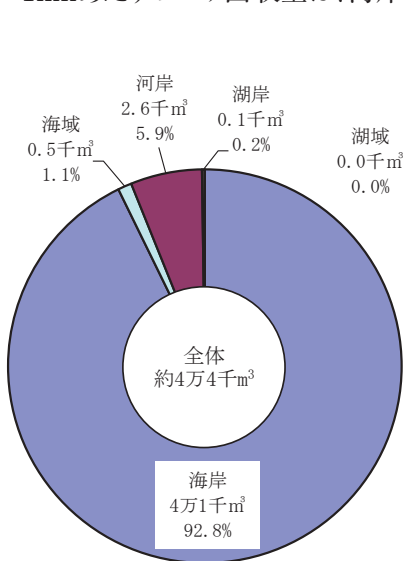


図8 ごみ回収量とその割合
注：各値は四捨五入してあるため、合計はその内訳の合算値と一致しない場合があります。

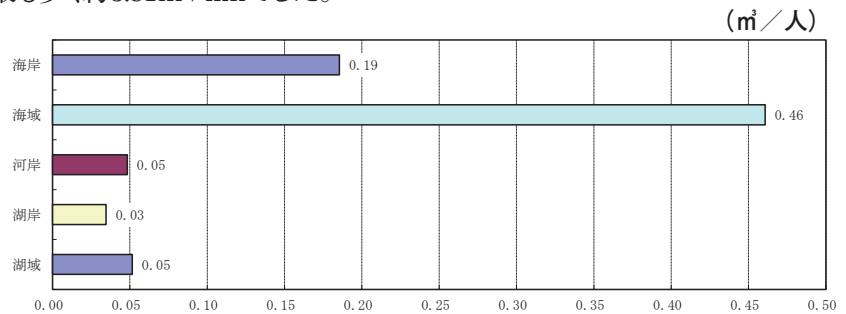


図9 参加者1人あたりのごみ回収量

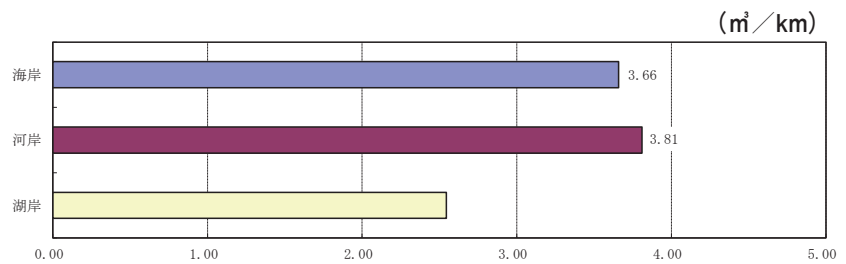


図10 1kmあたりのごみ回収量

令和3年度海浜等の美化活動事例調査報告書(抜粋)

(報告書の全文はホームページに掲載しています)

清掃に参加した組織は、多い順に地域関係(29%)、水産関係(19%)、企業関係(18%)、行政(10%)、学校関係(10%)の順でした。本報告書にはこの他、都道府県別の参加団体一覧や清掃活動中の写真を掲載しています。

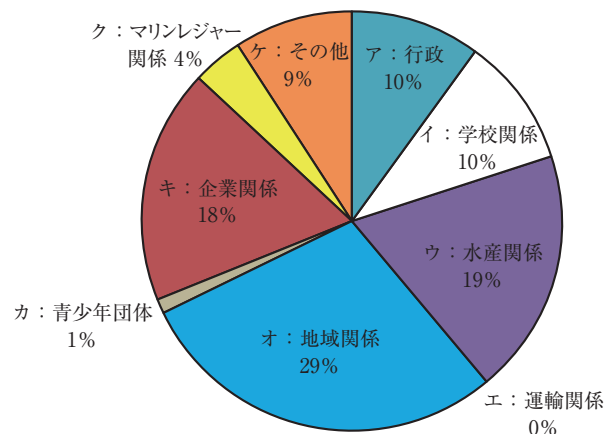


図11 参加した組織の割合

②令和3年度漁民の森づくり活動等調査 抜粋

平成13年度より行っている漁民の森づくり活動等調査の令和3年度報告書ができました。

報告書の全文はホームページに掲載しています。<http://www.umitonagisa.or.jp/html/bika.html>

【調査結果の概要】

令和3年度は89(中止含む)の活動報告がありました。この報告によれば50種類程度(針葉樹8種を含む)の樹種が植えられ、参加人数は4,200人程度、植樹本数は8千本程度でした(下刈りなど含む)。

表1でみると、植付けと答えた地域は、北海道が最も多く、下刈りは北陸・中部・近畿と九州、地ごしらえは北海道から多くありました。その他には消毒、チップ敷き、鹿防御柵修繕、ヨシ帯刈り、松葉かきがありました。

コロナの影響による活動制限は続いています。令和2年度と比較すると、活動数は3割以上、樹種数は10種類程度増加し、参加人数は3,500人から4,200人に増えました。植樹活動の場所については本文をご覧ください。

表1 地域ごとの作業種類の回答数(複数回答)

	植付け	下刈り	地ごしらえ	つる切り	枝打ち	間伐	その他
北海道	17	2	8	0	1	0	0
東北・関東	5	5	1	2	0	0	1
北陸・中部・近畿	8	10	1	2	1	3	1
中国・四国	5	6	2	1	1	2	2
九州	6	13	1	1	3	2	3

1 漁民の森づくり活動で使用された樹種

植樹された樹種の上位10種は図1の通りです。

最も多かった樹種はヤマザクラで全国11カ所でした。(このうち8カ所は九州地区)

各地域で使用されている樹種を図2に示します。北海道ではミズナラが5カ所、アカエゾマツが4カ所、その他10種が各1カ所でした。東北・関東ではコナラ2カ所、その他11種が各1カ所、北陸・中部・関西ではサ

クラ3カ所、ブナ、コナラ、ケヤキ、クヌギが各2カ所、その他16種が各1カ所でした。中国・四国ではモミジ3カ所、サクラ、ブナ2カ所、その他3種が各1カ所、九州ではヤマザクラ8カ所、ケヤキ5カ所、クヌギ4カ所、モミジ、コナラ各3カ所、ヤマモミジ、ヤマモモ、イロハモミジ各2カ所、その他10種が各1カ所でした。植樹された樹種の本数は、北海道12種、東北・関東12種、北陸・中部・近畿21種、中国・四国6種、九州18種でした。

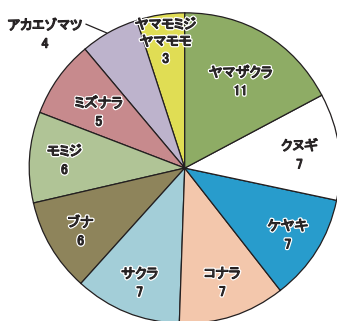


図1 全国の植樹活動で多く使用されている上位10樹種(活動数であって、本数ではない、ヤマモミジとヤマモモは同活動数なので併記した。)

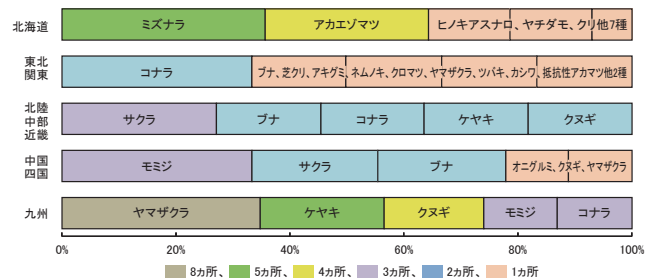


図2 各地方で植樹活動で使用される上位5樹種(活動数であって、本数ではない)

2 漁民の森づくり参加者が営む漁業種類(複数回答)

図3は漁民の森づくり参加者が営む漁業種類の割合です。

活動に参加した漁業者が営む漁業種類では、複数の漁業種類を営んでいる漁業者が3/4、1種類のみ営んでいる漁業者が1/4でした。

「その他」では、内水面漁業、まき網漁業を営んでいるとの回答がありました。

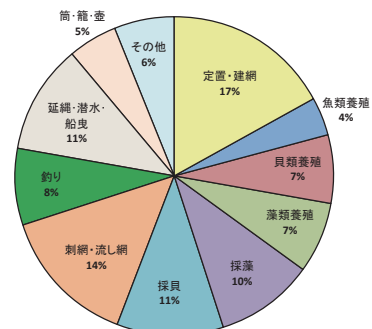


図3 森づくり活動参加者の漁業種類(複数回答)

3 令和4年度以降の漁民の森づくりについて

図4は令和4年度以降の漁民の森づくりの予定についてです。

これを見ると、「植樹を積極的に推進する」、「植樹の他、間伐・下刈り等管理にも力を入れていく」が各々24%でした。令和2年度の調査では「植樹はほぼ済んだので、下刈り等管理に力を入れていく」が28%を占めていましたが、今年度の調査では15%にまで減少していました。一方、「地拵えを行い、植樹場所を確保・増やす」は15%から21%に増加しており、この2年間で植樹に積極的な回答の割合が増えていました。その他では、「新たな植樹場所を選定中」、「下草刈りのみ定期継続する予定」、「高齢化により参加者減している現状であるので、規模を縮小し継続できたらよいと考えている」、「ヨシ帯刈り取り」、「競合植物の管理」、「新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら活動を継続していく」、「植樹の推進と植樹以外の水域環境保全活動も検討」、「海への土砂の流出を防ぐために鹿などの食害にあわない下草を移植する」といった回答がありました。活動中止の理由としては「コロナ感染対策」が挙げられていました。

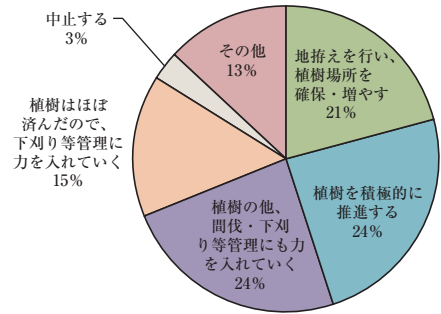


図4 令和4年度以降の漁民の森づくり作業予定について

4 漁民の森づくり活動の効果について(複数回答可)

「ア 漁業者以外の方との交流が増えた」との回答が最も多く、「オ 森川海の一体的型管理に向けた活動が始動した」では、事例として漁協青年部による海岸清掃が記載されていました。

「その他」では、「地域漁民の休漁期間の雇用創出」、「環境保護に関する啓発活動となった」、「豊かな海の重要性の啓発に繋がった」、「河川の環境整備、漁業関係者の森川海と一体となった環境保全への気運醸成につながった」、「森づくりの重要性に対する県民の理解・意識を深める機会を得られた」との記載がある一方で、「植樹して約1年経過しますが、まだ効果はない」という記載もありました。

表2 漁民の森づくり活動で抱える現在の課題について(複数回答可)

ア 漁業者以外の方との交流が増えた	44%
イ 漁民の森づくり活動が地方自治体の制度・政策(条例・総合計画・戦略など)に盛り込まれた。	7%
ウ 様々な団体が参加し、まち(都道府県、市町村)全体のイベントにつながった	12%
エ 保安林(魚付き保安林など)に指定された	2%
オ 森川海の一体的型管理に向けた活動が始動した	7%
カ その他	13%
キ 特になし	15%

5 コロナ禍の漁民の森づくり活動について

令和3年度の活動報告は令和2年度より増えましたが、令和元年度の128か所と比較すると、半分(中止を除くと59か所)程度です。コロナ禍においては、屋外活動である「漁民の森づくり活動」でも開催が難しいようです。その中で「漁民の森づくり活動」に対する現在の想いを表3のように選択式で尋ねてみました。

結果は、選択肢アイウの「活動継続」が6割を超えており、コロナ禍という困難な状況下においても、活動を前向きに進めることを考えている団体が多いことが分かりました。また、「新型コロナウイルスの感染の収束がはっきりするまで活動を中断している」との回答も全体の3割程度を占めましたが、このうちの3割(11%)は「次年度の活動計画を検討している」と回答してくれています。これらを総合すると、全体の3/4の団体が活動の継続を希望していることが分かり、漁民の「森づくり活動」への強い想いが感じられる結果となりました。

表3 コロナ禍の漁民の森づくり活動について

ア これまで通り活動を継続している	28%
イ 活動の規模を縮小して継続している	33%
ウ 活動の規模を拡大して継続している	2%
エ 新型コロナウイルスの感染の収束がはっきりするまで活動を中断している(次年度の活動計画を検討している) (エ1次年度の活動計画を検討している11%) (エ2次年度の活動計画を検討していない3%)	31%
オ 活動中止が決まった	7%

3.第24回シーフードショーに参加

～ブース出展、2日間に亘りセミナーを開催～

令和4年8月24～26日、東京ビックサイトで開催された第24回ジャパン・インターナショナル・シーフードショーに参加しました。

セミナーとブースで漁業系廃棄物のクリーンエネルギー化とエネルギーの地域循環(地産地消)について来場者に訴えました。

セミナーは「プラごみをその場でクリーンエネルギー～海洋プラゼロへの取組～」と題して、2日目と3日目の2回開催しました。セミナーでは、当機構と一緒にクリーンエネルギーの普及に取り組んでいる(株)エルコム(札幌市)と、今年から使用済み養殖フロートの燃料化に取り組むことになった愛媛県愛南漁協が順番に発表しました。両日とも30名程度の方が聴講してくれました。

ブースでは(株)エルコムと共同展示をしました。クリーンエネルギー化の動画素材を使った技術的な内容やセ

ミナーで触れることがなかった新素材での漁具開発の取組みについても展示し、来場者に宣伝しました。

世間で言われているほど海洋プラスチックごみに漁具

が多いわけではありませんが、海の恵みを楽しむ水産業界として、海洋プラスチックごみ対策に積極的に取り組んでいることを訴えることは重要です。愛南漁協のような事例が増えていくように活動していきます。

今後も豊かな海を次世代に残していくために取り組んでいきたいと思えます。(福田)



4.第6回京都大学“超”SDGsシンポジウムに参加

令和4年11月4日京都里山SDGsラボ「ことす」で開催された第6回京都大学“超”SDGsシンポジウムに参加しました。

このシンポジウムは持続可能性について、毎回「食」、「エネルギー」、「資源」とテーマを絞って開催しています。今回は「持続可能性とみんなごと化」。これは2025年大阪・関西万博に向けたレガシーづくりのためにみんなが共創する場というテーマのようです。

前半はピッチトーク、現地参加とweb参加を合わせて30団体が7分の持ち時間で取り組みを発表しました。自治体や企業、NPO、小中学生の発表もありました。ここでは「海ごみの多くは内陸部由来だ」と伝えました。後半は共創会議です。食品ロスや脱炭素など7つの班(3-5人/班)に分かれて、2025年までに行うことを話し合いました。海ごみの班(5人のうち4

人大学生)では海ごみの多くは川ごみなので、大阪の全ての河川にネットを張りごみを回収、回収したごみで「太陽の塔」を作ることでまともりました。大学生の考えは面白い。

行政の皆さん！網の設置許可とごみ回収にご協力をお願いします。(福田)



5. 令和4年度 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動)報告

未来に残したい、美しい浜辺・青い海

*全国から集まった海浜清掃活動報告の一部をご紹介します。
<http://www.umitonagisa.or.jp/html/genchihoukoku.html>

皆さまからの海の羽根募金による寄付や会費に加え日本財団からの助成金を活用して、「海と渚の環境美化運動」の全国的な展開を図るため、清掃資材(ゴミ袋)を漁協、地方自治体、NPO等に配布しています。5年間の配布実績は下表のとおりです。コロナ過で活動数が減っているとはいえ活動している団体は多く、これらの団体からの活動報告が、随時、当機構に寄せられています。寄せられた活動報告は、当機構で受け取り次第、ホームページ、ツイッターに掲載しています。また、ハッシュタグを付けて地元の方、海外の方にも容易に見つけていただけるよう工夫もさせていただきました。是非、ホームページ、ツイッターでご覧下さい。

Twitter <https://twitter.com/umitonagisa>

【清掃資材(ゴミ袋)配布実績】

(単位:万枚)

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	大	小	大	小	大	小	大	小	大	小
自然物ゴミ袋	33(8)	1.7	31(7.5)	0.7	23.6	0.7	18.5(11)	1.9	21.6(10)	2.6
人工物ゴミ袋	22	1.8	20	0.8	15.8	1.9	15.5(11)	0.5	16.2	2.3
計	55(8)	3.5	51(7.5)	1.5	39.4	2.6	34.0(22)	2.4	37.8(10)	4.9

注:()内の数字はJFマリンバンク、全国共済水産業協同組合連合会からの提供枚数です。
 平成30年度から小サイズ(20L相当)のゴミ袋も作成し、全部で4種類のゴミ袋を配布しています。「大」はこれまでと同様の自然物用が45L相当、人工物用が30L相当のゴミ袋です。

■ 北海道

北海道漁業協同組合連合会 ひやま漁協

令和4年5月27日(日)

活動場所 乙部漁港

参加者 300名

ゴミの量 人工物ゴミ 100袋

コメント 漁業用ロープの切れ端が目立った。漁業者が管理するエリアはゴミが少なかったが、遊漁関係のエリアはプラスチックゴミの量が多く回収に苦労した。



北海道漁業協同組合連合会 上磯郡漁協

令和4年6月2日

活動場所 涌元漁港

参加者 35名

ゴミの量 人工物ゴミ 50袋

コメント 定期的に清掃を実施している漁港だけあって、目につくゴミは少なかった。草むらに忘れ去られたブルーシートが多くあり、草刈りを並行したところそれなりのごみを回収することができた。



苫前町住民生活課

令和4年6月7日(日)

活動場所 苫前町海岸一円

参加者 132名

ゴミの量 自然物ゴミ 約600袋、
人工物ゴミ 約400袋
その他 2,770kg

コメント 苫前町では毎年6月上旬に町内会や各団体、企業など多くの町民の方々にご協力をいただいて町内海岸のごみ拾いを実施しております。例年新型コロナウイルスの影響で開催が遅れておりましたが、今年度は影響なく涼しい時期に開催することができてよかったです。



湧別漁業協同組合

令和4年6月20日(日)

活動場所 湧別川河口河川敷、湧別三里浜キャンプ場

参加者 80名
 ごみの量 自然物ごみ 30袋
 人工物ごみ 70袋

コメント 6月18日に3年ぶりに予定していた「サロマ湖ごみゼロ運動」が中止となりました。代替えとして、湧別川河口河川敷と湧別三里浜キャンプ場付近の清掃を実施しました。



■秋田県

秋田県 三種町商工観光交流課

①令和4年6月14日(火)

三種町建設業協会クリーンアップ

②令和4年6月30日(木)

三種町・町立学校合同クリーンアップ

②令和4年7月2日(土)～8月28日(日)

海水浴場監視員による環境美化活動

活動場所 秋田県三種町釜谷浜海水浴場

参加者 約450名

ごみの量 自然物ごみ 200袋
 人工物ごみ 50袋

コメント 例年よりもごみの量が多く感じられた。



■茨城県

とうかい環境村民会議 自然共生社会部会

令和4年4月17日 8時30分～10時30分

活動場所 豊岡海岸(茨城県那珂郡東海村大字豊岡地内)

参加者 82名

ごみの量 自然物ごみ 190袋
 人工物ごみ 170袋
 その他 廃タイヤ、家具の破片、プラカゴ、ポリタンク等

コメント プラスチックごみがこんなに多いとは思わなかった。継続してごみ拾い活動をする必要があると感じた。



■東京都

八丈島漁業協同組合女性部

令和4年7月7日

活動場所 漁協女性部加工場近隣(浜から近い)

参加者 13名

ごみの量 自然物ごみ 5袋
 人工物ごみ 1袋

コメント 先週は船主さん達が港の周りを掃除したためごみはない。今廃棄物を捨てる苦情がくるためこの浜に行ってもボランティアで掃除しているためごみはないです。そこで女性部加工場になりました。



■新潟県

上越プラネット

令和4年6月11日(土)午前7時～8時

活動場所 虫生岩戸～居田海岸

参加者 630名

ごみの量 その他ごみ 1,040kg

コメント 地元の海をきれいにしたい。地元の海をきれいにしたいという思いを、これからも引き継いでいきたい。

令和4年10月1日(土)午前7時～8時

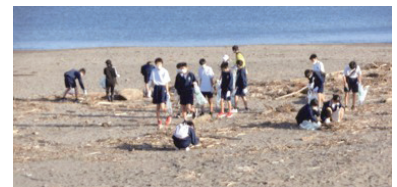
活動場所 虫生岩戸～居田海岸

参加者 650名

ごみの量 その他ごみ720kg

コメント

・こうした活動をとおして環境について考えるきっかけになればよい。
 ・活動をとおして海岸清掃の大切さを学ぶことができた。



糸魚川市

令和4年7月3日(日)午前6時30分～1時間程度

活動場所 糸魚川市青海地域の海岸・砂浜

参加者 約1,500名

ごみの量 自然物ごみ 約1,000袋
 人工物ごみ 約1,000袋

コメント

・改めて海にはたくさんの種類のごみがあると感じた。
 ・海はごみ捨て場ではない、海を利用する者が再認識する必要がある。
 ・気持ち良く海岸に来てもらうため、毎年参加したい。



新潟漁業協同組合 南浜支所

令和4年9月27日(日)午前9時30分～11時00分

活動場所 新潟市北区太夫浜海岸 1km

参加者 100名

ごみの量 自然物ごみ 100袋
 人工物ごみ 120袋
 その他 流木

コメント 今年もコロナ対策として全校生徒ではなく選抜人員での実施となりました。また今年7月に開催予定でしたが猛暑により延期して実施しました。マリニア日本海から解説員を派遣頂きマイクロプラスチックについて解説頂き小さなプラスチックごみも拾いました。



■ 福井県

若狭三方漁業協同組合

令和4年6月5日

活動場所 常神半島海岸線

参加者 136名

ごみの量 自然物ごみ 1000袋
人工物ごみ 500袋
その他 流木、藻類、
ロープ等

コメント 漁具やロープのごみが多いので、漁の仕事をする上でも環境について考えていきたいと思う。



小浜市漁業協同組合

①令和4年6月5日(小浜、加斗、泊、堅海、
仏谷、宇久、加尾、阿納、犬熊、田鳥)

②令和4年6月6日(西小川)

③令和4年6月26日(志積、矢代)

活動場所 上記の各地区

参加者 283名

ごみの量 自然物ごみ 100袋
人工物ごみ 200袋
その他 うき等普通トラック1台分

コメント 小浜市の海岸では冬場に
ごみが大量に漂着するため、1年を通
じて清掃活動をしています。

処分する際、分別を行っています。分
別をするためフレコンバック等の支援
をお願いしたい。



北潟漁業協同組合

①令和4年6月5日

②令和4年7月12日

③令和4年7月17日

活動場所 ①あわら市浜坂海岸・北
潟海岸 ②あわら市城海
岸岸 ③あわら市波松海
岸・城新田海岸

参加者 ①88名 ②35名 ③150名
ごみの量 自然物ごみ 100袋
人工物ごみ 200袋
その他 うき等普通トラ
ック1台分

コメント 波松地区のように企業・団
体での参加があると年に何度もでき
るので海岸はきれいである。道から砂
浜までの段差の多いところでは運搬
ができず何年たっても手つかずのま
まである。



■ 静岡県

戸田漁業協同組合

令和4年7月12日

活動場所 静岡県沼津市戸田 御浜
海水浴場一帯

参加者 80名

ごみの量 自然物ごみ 23袋
人工物ごみ 23袋
その他 流木等 軽トラック
4台程度

コメント 人工物ごみとしてはPETボ
トルや発砲スチロールが目立った。日
光や風雨で変質しているものも少な
くない。海洋プラスチックが社会問
題として大きく取り上げられるよう
になって久しいが、海に流出するプラ
スチックはまだ多いと感じる。

より一層の啓発運動が必要であら
う。



■ 兵庫県

ひょうご豊かな海 発信プロジェクト協議会

令和4年5月22日(日)10時15分~10時45分

活動場所 江井ヶ島海岸(明石市大
久保町江井島)

参加者 74名

ごみの量 自然物ごみ 3袋
人工物ごみ 6袋

コメント ペットボトルなどのプラスチ
ックごみだけでなく、古タイヤ、パー
ベキューの炭など様々なごみを回収
でき、海が綺麗になって良かった。ま
た海岸清掃のイベントがあれば、積
極的に参加したい。清掃活動は、(公
財)海と渚環境美化・油濁対策機構
とひょうご豊かな海発信プロジェクト
協議会が主催した「第41回全国豊
かな海づくり大会~御食国ひょうご
~開催記念 令和4年度全国一斉海
浜清掃旗揚げ式~虹の間で海づくり~
」の行事の一部として、実施した。



■ 広島県

大崎上島町

令和4年7月16日(土)

活動場所 大串海岸、沖浦漁港

参加者 約100人(地元地区住
民、漁協)

ごみの量 自然物ごみ 約100袋
人工物ごみ 約50袋
その他 流木、タイヤ、発砲
スチロール、プラスチック類

コメント 流木や発砲スチロール、プ
ラスチック類等の漂着ごみが多く回
収された。



■ 徳島県

椿泊漁業協同組合女性部・ 椿泊婦人会

①1年を通じて悪天候以外はほぼ毎日

②令和4年9月3日

活動場所 ①徳島県阿南市椿泊町
東海岸 ②徳島県阿南市
椿泊町 椿泊漁港

参加者 ①のべ500名 ②100名

ごみの量 ①自然物ごみ 100袋
人工物ごみ 150袋
②自然物ごみ 50袋
人工物ごみ 30袋

コメント ①ポイ捨てされたプラごみ・ペットボトルが、毎日堤防の隅に流れ着きます。拾ってくれる方は数名ですが、1年を通じて、悪天候の日以外は毎日と言ってよい程、海からごみをたも網ですくい上げたものを分別して、市のごみ収集の日に出してくれています。②毎年秋祭りの前に、椿泊漁協女性部と椿泊婦人会が中心となり、海岸及び町掃除を実施しています。



■ 福岡県

福津市うみがめ課

令和4年6月19日AM9:00~10:00

活動場所 福岡海岸、宮地浜・津屋崎海岸、恋の浦海岸、津屋崎干潟、勝浦浜海岸

参加者 1,040名

ごみの量 自然物ごみ 3,050kg
人工物ごみ 460kg

コメント とても良い天気になり暑くなりましたが、皆で頑張ったくさんのごみを片付けることができ、綺麗になった海岸を見られてとても気持ちよかったです。



福岡有明海漁業協同組合 連合会

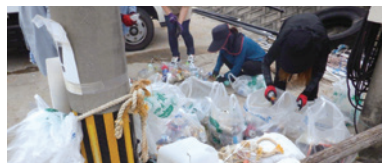
令和4年8月19日(金)AM7:00~10:00

活動場所 福岡県有明海沿岸域

参加者 1,424名

ごみの量 自然物ごみ 63,45トン
人工物ごみ 9,16トン
その他 1,00トン

コメント 「去年に比べてごみの量が多かった。」「大きなごみ袋じゃないと回収できないごみがあった。」等の意見があった。



■ 熊本県

熊本県漁業協同組合連合会

令和4年8/20(土)、8/21(日)

活動場所 荒尾~網田沿岸

参加者 2,200名

ごみの量 自然物ごみ 2tトラック
70台分
人工物ごみ 2tトラック
35台分

コメント この活動を通じてごみを捨てる人が減って欲しい。また今後も環境美化活動に積極的に取り組んでいきたい。



■ 大分県

大分県漁業協同組合

令和4年7月18日(日)AM7:00~12:00

活動場所 海岸全域 38km

参加者 480名

ごみの量 自然物ごみ 6,560kg
人工物ごみ 4,370kg

コメント 参加者の高齢化が進んでいるので流木など大きなごみに関しては回収が難しくなってきた。



姫島村役場

令和4年7月23日(土)

活動場所 姫島一円(周辺海岸)

参加者 792名

ごみの量 合計 5,750kg

コメント 梅雨時期の大雨の後、河川から流出したと見られる大量の葦や流木、漂着したと見られるペットボトル等の撤去や公民館・公園・道路の草刈り、花壇の草取りを実施。今年度も葦や流木、ペットボトル等が多く見られた。



あ と が き

全国漁業協同組合学校という1年全寮制の学校があります。自分は5-6年前から年1回の特別講義の場を頂いています。昨年と今年の学生さんを見ていると、海洋プラごみが騒がれはじめた頃に中学生で、多感な中高生時代に学校で授業を受けたためか、リサイクルに対する知識と理解があって、廃棄漁具の適正な処分や、リサイクルの未来に期待大です。特別講義では、3年

使用と10年使用の網糸では同じ素材でも傷み具合が異なるので、リサイクルの出口(方法)が異なる場合があることや、プラスチックでは「長く大事に使う」とリサイクルの出口が狭まる恐れがあることなど、現場で感じたことを話しました。将来、受講生から、あの時の講義の意味が分かったとか、無意味だったとか、感想が聞ける日が来るのを楽しんでいます。(福田)

